

I 災害の教訓

- 1 地震
- 2 地震・津波
- 3 火山噴火
- 4 風水害
- 5 暴風雪
- 6 竜巻

1 地震

平成 30 年（2018 年）北海道胆振東部地震

○ 発生日月日 平成 30 年（2018 年）9 月 6 日 3 時 7 分

○ 震央地名 胆振地方中等部

○ 規模（マグニチュード） 6.7

○ 最大震度 7

○ 概要

厚真町で震度 7、安平町とむかわ町で震度 6 強を観測したほか、道内ほぼ全域で震度 6 弱～1 を観測した。地震発生後、全道の電力需要の約半分を供給していた苫東厚真火力発電所が地震による損傷で停止し、3 時 25 分に道内 295 万戸の全戸停電（ブラックアウト）が発生した。



○ 被害状況

ア 人的被害：死者 44 名（災害関連死 3 名含む）、重傷 51 名、中等傷 8 名、軽傷 726 名

イ 住宅被害：全壊 469 棟、半壊 1,660 棟、一部損壊 13,849 棟
非住宅被害：全壊 1,165 棟、半壊 1,325 棟、一部損壊 3,751 棟

ウ ライフラインの被害状況

① 電気：停電 295 万戸（道内全域）

② 水道：断水 44 市町村 68,335 戸

○ 公立文教被害

ア 避難所となった学校：350 校（最大）

イ 休校となった学校：1,891 校（最大）

ウ 物的被害：292 件（小学校 145 件、中学校 52 件、高等学校 52 件、中等教育学校 1 件、特別支援学校 12 件、大学 1 件、その他 2 件）



写真提供：（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」

2 地震・津波

平成5年（1993年）北海道南西沖地震

- 発生年月日 平成5年（1993年）7月12日 22時17分
- 震央地名 北海道南西沖
- 規模（マグニチュード） 7.8
- 最大震度 5
- 概要
地震発生後、22時22分に北海道日本海沿岸に大津波警報、太平洋沿岸に津波警報、オホーツク海沿岸に津波注意報が発表された。震源に近い奥尻町では発震後まもなく津波が到達（最大21m）、渡島半島西部の沿岸でも10分以内に到達し、津波による犠牲者と被害が増加した。また、奥尻町と大成町（現せたな町）では、発震後わずかな時間に火災が発生した。
- 被害状況
 - ア 人的被害：死者201名、行方不明者28名、重傷83名、軽傷240名
 - イ 住宅被害：全壊601棟、半壊408棟、一部損壊5,488棟、床上浸水216棟、床下浸水136棟
- 公立文教被害
 - ア 物的被害：75件（小学校45件、中学校18件、高等学校7件、その他5件）



3 火山噴火

平成 12 年（2000 年）有珠山噴火災害

- 発生年月日 平成 12 年（2000 年）3 月 31 日
- 概要
西山西麓・金比羅山付近に多数の火口が形成されたこと、山麓での地殻変動が激しかったことから、噴火そのものは 1977-78 年の噴火に比べて小規模だったにもかかわらず、被災者の避難生活は長期化し、有珠山西麓を中心に大きな被害をもたらした。建物等の被害は大きかったが、噴火による直接の死者・負傷者がなかった。
- 被害状況
 - ア 人的被害：なし
 - イ 住宅被害：全壊 119 棟、半壊 355 棟、一部損壊 376 棟
- 公立文教被害
 - ア 避難所となった学校 25 校（最大）
 - イ 物的被害 7 件（小学校 3 件、中学校 2 件、高等学校 1 件、給食センター 1 件）



4 風水害

平成 28 年（2016 年）8 月から 9 月にかけての大雨等

- 発生年月日 平成 28 年（2016 年）8 月 17 日～23 日、9 月 6 日～7 日
- 概要
8 月 17 日～23 日の 1 週間に、1951 年の統計開始以来初めて 3 個の台風（台風第 7 号、第 11 号、第 9 号）が連続して上陸し、日本海北部渡島半島方面を除く広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫や土砂災害が発生した。また、8 月 29 日から太平洋側東部を中心に暖かく湿った空気が流れ込み、降雨が続き、その後 8 月 30 日には台風第 10 号が北海道へ北上・接近し、十勝地方を中心に大雨となり、河川の氾濫や土砂災害が発生した。さらに、9 月 6 日～7 日にかけて、前線を伴った低気圧の影響により、日本海側北部を中心に大雨となり、利尻島では 50 年に一度の大雨となった。
- 被害状況
 - ア 人的被害：死者 4 名、行方不明者 2 名、重傷者 2 名
 - イ 住宅被害：全壊 39 棟、半壊 113 棟、一部損壊 1,125 棟、床上浸水 395 棟、床下浸水 1,081 棟
- 公立文教被害
 - ア 物的被害：191 件



写真：ほっかいどうの防災教育ポータルサイトより

5 暴風雪

平成 25 年（2013 年）発達した低気圧通過による暴風

○ 発生年月日 平成 25 年（2013 年）3 月 1 日～3 日

○ 概要

3 月 1 日に日本海から前線を伴った低気圧が急速に発達しながら 2 日は北海道を通過、通過する際に前線閉塞点に新たな低気圧が発生したため、一旦北海道は気圧の傾きが緩くなったが、午後にはオホーツク海で低気圧がひとつにまとまり、3 日朝には千島近海に達して中心気圧は 968hPa まで低下した。

このため、低気圧通過直後の吹き返しの西または北の風が雪を伴い非常に強く吹いたため、道北や道東方面では 2 日は穏やかな天候が一変し、少し先も見えないほどの猛吹雪となった。

最大瞬間風速は、羅臼 35.0m/s、根室 34.4m/s、稚内 34.1m/s、中標津町上標津 34.0m/s、小清水 32.4m/s、札幌 31.7m/s、紋別空港と北見市常呂、網走、江差でいずれも 31.4m/s を記録した。

気象台や防災機関、メディアなど事前に天候の急変や暴風雪に対する警戒を呼びかけていたが、数時間穏やかな天候となったことから外出する人も多く、天候急変後の猛吹雪や吹きだまりにより、車の立ち往生が多く発生、車両の中でCO中毒となったり、救助を待ちきれず車を離れて方向を見失ったりするなどして道内では 9 名が亡くなった。また、一時 671 名が公民館などに避難した。

○ 被害状況

- ア 人的被害：死者 9 名、重傷 4 名、軽傷 9 名
- イ 住宅被害：半壊 2 棟、一部損壊 27 棟

6 竜巻

平成 18 年（2006 年）佐呂間竜巻災害

○ 発生年月日 平成 18 年（2006 年）11 月 7 日

○ 概要

日本海北部にある低気圧が発達しながら北東に進み、この低気圧からのびる寒冷前線が朝から夕方にかけて北海道を通過した。

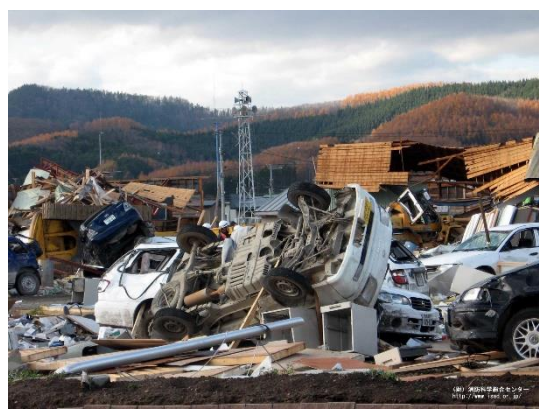
北海道付近の大気の状態は非常に不安定となり、各地で短時間強雨や雷が観測されたが、13 時 30 分頃、佐呂間町付近に寒冷前線が接近した際、突風（竜巻）が発生した。

竜巻は佐呂間町若佐地区の市街地を南西から北東方向へと通り抜け、通過地域で大きな被害をもたらした。

○ 被害状況

ア 人的被害：死者 9 名、重傷 6 名、軽傷 25 名

イ 住宅被害：全壊 7 棟、半壊 7 棟、一部損壊 27 棟



写真提供：（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」